

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームありがとう一番町 2階		
所在地	静岡市葵区一番町30番地		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの裏手に公園と、横には小学校廃校跡地に市民活動支援センターがある。テニスコートと運動場は市民のスポーツの場で、土日には地域の高齢者がゲートボールを楽しんでいる。広い幹線道路から少し入った住宅街に囲まれ、近くにお茶の町工場が点在し窓を開けるとお茶の香りがホームに広がる。私たちは事業所の基本理念を基に、みんなで考えたホーム理念「その人らしく、笑顔で住みやすい家、ありがとう一番町」に沿って質の向上をめざし取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建てですが近隣住宅も立派で、また公園に隣接していることもあり周囲にとけ込んでいます。昨年管理者交代があり、人手不足や書類管理に追われつつも事業所運営の立て直しに尽力した一年でした。新たな気持ちで職員全員で話し合い作った理念に基づき、言葉遣いに至る細目から見直したことが動機づけとなり、職員や利用者の笑顔が増えています。またメリハリをつけた生活を目指し、社協ボランティアセンターを活用したバルーンアートやギター演奏の訪問も加わりました。一番町保育園との恒例行事など前任者の遺産を継承するとともに、新管理者のもと職員総意の理念が体现しつつあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で考えた「その人らしく、笑顔で住みやすい家、ありがとう…」のホーム理念をホーム内に掲示し、毎日の申し送りや唱和し実践に向けている。	『その人らしく 笑顔で住みやすい家 ありがとう一番町』は、新管理者着任直後に職員全員で話し合い作ったもので、皆に愛着と自負があります。理念を通じて職員にプロ意識が芽生え、また事業所内の笑顔が増えており、管理者は変化を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(公園の清掃、敬老会、避難訓練等)に積極的に参加して地域とのつながりに向け努力している。	散歩するときにはこちらからの挨拶を心がけており、時には隣接公園でゲートボールに興じる高齢者との会話が弾むこともあります。地元店舗で饅頭を購入したり、回覧板で公園清掃の日時を得て、参加できる利用者とともに出かけます。	今後は園児、児童との交流の機会を増やしていきたいとのこと —実現を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや近隣の病院などホームの情報を開示している。地域の方々との交流を深め理解して頂けるよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム管理者の交代で運営推進会議がなかなか開催できずにいたが2ヶ月ごとの定期的な開催に取り組んでいる。	予め日程を決め、定期開催されています。地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表のほか、職員も輪番で出席しています。ボランティア紹介や、防災面では具体的な避難方法について検討され、充実した場であることを書面で視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活に関して市の福祉課担当者と常に連絡を取り合い実情やケアサービスの問題点等も相談して協力関係ができています。	窓口へ毎月訪問する生活支援課では休夜間の緊急連絡先や制度面での疑問点に丁寧に応じてもらっています。地域包括支援センターとの連携を密にするよう努め、運営推進会議にも参画してもらっています。	昨年の目標達成計画に挙げた地域ケア会議への参加は管理者の交代により達成できていないため、引き続きの取り組みを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は絶対にしない。」の姿勢で日々ケアに取り組んでいる。玄関やホームの出入り口の施錠はしていない。その人の状態によっては、家族に相談しながら、カンファレンスや担当者会議を開催しプランの見直しも行う。『身体拘束0宣言』を遵守している。	玄関施錠はなく、利用者が落ち着かない時はさりげなく傍らに居るようにしています。スピーチロックは、会議の中で時間をかけ学び合っています。つい発してしまう「ちょっと待ってね」の言葉にも「すみません、ありがとう」が添えられるようになったことは、ここ一年の大きな成長です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な虐待行為や虐待防止に向け、カンファレンスやミーティング等で話し合い理解を深め、日々チェックしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の個々の状況を把握し必要な方には制度の説明をさせていただいている。現在活用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る場合は、事前に契約締結に至るまでの流れを説明をさせていただき、不安や疑問点が解消できるよう十分な説明に努めている。(必要であれば先に渡して目を通して頂いている。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、今の所意見や要望はない。ご家族の訪問は比較的多く、訪問時や電話で何でも話せる関係ができています。	少ない家族でも週に1度の面会があり、孫や親戚も訪れています。リレーションを心がけたことで、家族のロコミで待機者に繋がり、信頼をつくることの大切さを実感しています。『ありがとう新聞』は毎月利用者本人が色づけしたものが家族に届けられ、小さな関わりにも配慮しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の申し送り、業務の中でコミュニケーションを取りあい意見などを言いやすい・聞きやすい環境ができています。	考えるケアを推奨するなか、職員の意欲と発言力が高まっています。疑問点はみんなで解決していく姿勢をもち、介護技術の学習を会議時間を利用して行い、報連相も徹底させています。また時間前には居間で待ちわびる人もるほど人気の高い体操は職員考案のものです。	今後は個人面談を行っていく予定とのことです。実現を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の勤務状況等を把握し就業規定を踏まえ向上心を持って働けるよう給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の入れ替わりが多かった1年。徐々に落ち着き、全体の力量の把握ができてきた。事業所内外の研修の機会を増やし質の向上をはかりたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流の時間や機会がとれない。今後、研修等に参加し同業者との情報交換などを通じ相互の訪問など活動を進めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご本人にお会いし生活状況、心身の状態、ご本人や家族の思いを傾聴し安心して頂けるよう、また、信頼関係が築けるように細かい配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今の状況、サービスを導入に至った経緯、ご苦労等傾聴し、ご家族の思いを理解しどのような対応ができるか一緒に解決の方向性を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は特に本人の不安を取り除くべく細かい対応に努め必要な支援を見極めながら家族と相談の上、状況によっては柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安や楽しみ等を把握し共に支え合う関係を作る様に努めている。また、家族同様な関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の様子をご家族に報告し協力関係が築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を得ながらご本人の今までの生活習慣が継続できるよう支援に努めている。また、馴染みの方の来訪や家族との外出なども継続的な関係ができています。	家族と外で過ごし食事を摂って戻る利用者も多く、親戚つきあいを続けている人もいます。好きな花の水やりを日課とし、新聞を取りに行くことが役割の人、毎日読書をする人、宗教を続けている人、駐車場の掃除を担当している人もいます。年賀状や手紙の支援もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日生活していく中で役割や活動を通じ、入居者同士の関係が円滑になるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られても支援内容、注意点などの情報提供し相談事があればいつでも対応させていただく関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や要求、思いに答えられるよう把握に努めている。困難な場合は家族や本人を交え検討するようにしている。	要望を明瞭に伝えることができる人もいて、独自シートで集積しています。言葉にできない人には、職員が投げかけを試みて、反応をもって推し量るようにしています。不穏は本人の感情の発信と捉え、受けとめています。一対一になる夜間にはたくさんの言葉の表出がある人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とのやり取りの中で支障のないかぎり過去の生活環境等情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしを把握し心身状態などを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより気持ちよく穏やかに暮らせるように家族や本人から情報を収集しサービス担当者会議やカンファレンス等で話し合い職員全体で考えている。	担当制を敷き毎月ユニットでカンファレンスを行い、プランは計画作成担当者が作成したうえでケアマネージャーがチェックしています。「話好きなので会話をもっとほしい」「自分から話しかける人ではないので職員から声をかけてほしい」との家族要望もあり、プランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活状態や気づいたことを記録し、情報の共有を図っている。必要であれば介護計画を見直し変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人または家族の希望に柔軟に答えられるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や清掃活動に参加するなど地域の方と関わりを持っている。公園に散歩に出かけ近隣の方々と会話を楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で対応してくれる協力医療機関を利用しているが、中には家族や本人の希望で他のかかりつけ医を利用されている方もいる。日頃の状態を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医を継続している人は2名で、受診は家族にお願いしています。月2回往診があり、急変時にも駆けつけてくれる在宅専門医のため安心が大きく、ほとんどが協力医に変更しています。まず。週に一度訪問看護が来所し細かい観察と指示で早めの対応ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気配りし医療や看護に関する事は細かく報告している。看護師や主治医の指示を仰ぎ支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と常に情報を交換しどのような状況かを把握し本人にとってどうしたら良いか関係機関全体で考え方向性等の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、契約時に対応できるケアについて説明をしている。看取りの方向であればその状態に近づいた時、説明・同意のうえ家族・医療・ホームが一体となり対応を行っている。	本年は1件の看取りがありました。誠意をもってエンゼルケアまで実践する先輩の姿に、若い職員から「私も一緒にみます」との声も飛び出しています。また「生前そのままのいい顔に整えてもらえた」と家族から感謝も届き、心強い協力医に支えられた事業所の意欲は高まっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。対応後、スムーズにできたか等反省も含めホーム会議や申し送り話し合っている。スタッフ全員が対応できるよう実践的研修も行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加しホーム内でも避難方法を確認している。職員とご利用者が協力し避難訓練や消火訓練を行っている。消防計画通り年2回はやっていきたい。ホーム内委員活動で防災委員は3ヶ月に1回活動報告を義務づけている。	地域の防災訓練に参加し、また運営推進会議においても発災後について情報交換ができており、災害対策において先んじています。備蓄は一週間分を見据え準備を始めました。さらに地域連携に向け、「避難所としての利用など事業所として協力できる」ことも発信しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を大切に受け止め会話するよう心掛けている。また、時代背景を理解し傾聴・共感に努めている。人生の先輩として尊敬の念をもちケアさせていただいている。	入職時には尊厳、マナーの研修を行っています。接遇は繰り返しの意識づけが必要と考え、標準化に向け本人だけでなく職員全員に伝えており、行動変容がみられています。また疑似家族として毎日生活を共にすると馴れ合いになりがちな点を特に留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせ声掛けしている。会話を通して、自己決定できるように支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、体調・様子等観察し会話を通して気持ちを引き出している。体操・歌・散歩・ゲーム等随時希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱の出来る方は自分で服を選んでいただいている。介助の必要な方は、その日の気温に合わせて声掛けにて職員が見守り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備で、おしぼり巻き、箸・スプーン置き、トレー置き、お茶入れ、配・下膳など声掛けにて手伝いをお願いしている。季節の物を取り入れたメニューにし季節感を感じていただいている。	管理栄養士による年間の献立表をベースとして、ユニットごとアレンジを加えながら調理しています。魚の形がわかると食が進まない利用者には、すり身にして提供する工夫もみられます。野菜は近隣業者から配達され、週に1～2回利用者とおやつレクで楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を把握して個々に合わせた食事(おやつ)を提供している。食事量や水分制限を必要としている方は主治医の指示に従っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分で出来る方は声掛けや見守りで支援している。できない方は個々の身体状況にあわせケアをおこなっている。コップ・歯ブラシ等は毎日夜間除菌し衛生管理を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に2時間毎トイレ誘導させていただいている。頻回の際は随時支援を行っている。ほとんどのの方がリハビリパンツを使用している。個人の状態を把握し紙パンツ利用を見直すこともある。	布パンツへの移行を目指しており、排泄チェック表でパターンをつかんで誘導しています。重度になっても日中はトイレでとし、自立を意識したケアが実践されています。夜間は原則安眠確保ですが、眠りが浅く尿意が頻回な場合は眠剤に頼らず本人の感覚を優先した支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄管理している。便秘対策として繊維の多い食事や水分、牛乳など提供し自然排泄ができるよう支援しているが、薬の服用が必要の方も多くDrの指示に従っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てるよう入浴を拒否される方にも根気よく声掛けし入浴していただいている。決して無理強いはいしない。同性の介助を希望される方には希望の支援を行っている。会話を楽しむ場になっている。	毎日湯を準備して週2~3日の入浴としていますが、希望があれば応じています。重度化が進み、職員二人介助が必要な人が半数以上となっています。敏感肌の人もいるため浴剤は使っていませんが、柚子湯や菖蒲湯が好評です。同性介助の希望にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣に合わせ支援している。(早く寝たい・TVをゆっくり見たい等)昼夜逆転しないようなるべく日中起きて過ごせるよう天気の良い日は散歩等の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし職員が把握できるようにしている。状態により薬の変更もある。随時連絡ノートを使い情報共有できるよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「できる事、出来ない事」を把握し無理なく参加をできる環境を整え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天候で近くの公園へ散歩に出たり、ホームの回りを一周している。月1回の行事でも外出(ドライブ)を取り入れている。	天気の良い日には外気浴や散歩への希望も多いため積極的に外出しています。月に一度はドライブで駿府公園、護国神社と市内を巡り気分転換を図っています。法人では福祉車両を備えての後方支援もあることから、今後は「利用者の意向に沿った外出計画を」と考えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理することになっている。本人の希望が強いばあい、家族の同意の上、少額を本人が持っている方もいる。職員と一緒におやつを買いに行ったり、近隣のお宮さんへお参りに行きお賽銭に使ったりができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望された場合はスタッフが電話をかけて取り次いでいる。家族からの電話も同様でいつでもやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共用部は好きなところでくつろげるように、椅子やソファを工夫して置いてある。幼稚性のある掲示物は控え生活や季節が感じられるよう生花を飾る等配慮している。	階段には運動会や敬老会の行事写真が、また壁にはちぎり絵が拡がり、筆書きの絵手紙は居室入口に誇らしげに飾られています。レクリエーションでは明るい声が響き、利用者の朗らかな表情に日頃の行事や作品づくりの確かな歩みが視えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を強制せず自由に好きなところで過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には今まで使用していた物、大切にしていた物など持って来て下さるようお願いしている。(半数は自分らしい居心地の良い部屋になっている。)	家族や愛犬の写真を置き、また年賀状を何度も読み返す人もいて、個々の時間が大切にされていることが見てとれます。その人にとっての心地よさが何であるかを大事にしており、鏡台でスキンケアと身なりを整えてから朝食に臨む人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレなどスペースも広い。危険のないように配置を考えている。必要部に手すりも設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームありがとう一番町 3階		
所在地	静岡市葵区一番町30番地		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしくある事。
住みやすい家である事。
お客様も職員も笑顔で過ごせる事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建てですが近隣住宅も立派で、また公園に隣接していることもあり周囲にとけ込んでいます。昨年管理者交代があり、人手不足や書類管理に追われつつも事業所運営の立て直しに尽力した一年でした。新たな気持ちで職員全員で話し合い作った理念に基づき、言葉遣いに至る細目から見直したことが動機づけとなり、職員や利用者の笑顔が増えています。またメリハリをつけた生活を目指し、社協ボランティアセンターを活用したバルーンアートやギター演奏の訪問も加わりました。一番町保育園との恒例行事など前任者の遺産を継承するとともに、新管理者のもと職員総意の理念が体现しつつあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で生活できるように心がけている。利用者に役割を与え、感謝の気持ちを表すようにしている。	『その人らしく 笑顔で住みやすい家 ありがとう一番町』は、新管理者着任直後に職員全員で話し合い作ったもので、皆に愛着と自負があります。理念を通じて職員にプロ意識が芽生え、また事業所内の笑顔が増えており、管理者は変化を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園清掃に参加している。地域を散歩し住民の方々と会話することもある。また、近隣の商店を利用することもある。	散歩するときにはこちらからの挨拶を心がけており、時には隣接公園でゲートボールに興じる高齢者との会話が弾むこともあります。地元店舗で饅頭を購入したり、回覧板で公園清掃の日時を得て、参加できる利用者とともに出かけしています。	今後は園児、児童との交流の機会を増やしていきたいとのこと —実現を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム管理者の交代で運営推進会議が開催できずにいる。2月を初回とし定期的な開催に取り組みたい。	予め日程を決め、定期開催されています。地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表のほか、職員も輪番で出席しています。ボランティア紹介や、防災面では具体的な避難方法について検討され、充実した場であることを書面で視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活に関して福祉課と常に連絡を取り合い実情やケアサービスの問題点等も相談して協力関係ができています。	窓口へ毎月訪問する生活支援課では休夜間の緊急連絡先や制度面での疑問点に丁寧に応じてもらっています。地域包括支援センターとの連携を密にするよう努め、運営推進会議にも参画してもらっています。	昨年の目標達成計画に挙げた地域ケア会議への参加は管理者の交代により達成できていないため、引き続きの取組みを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や出入口は施錠していない。身体拘束もしていない。言葉の抑制も行わないよう心がけている。今後も身体拘束0宣言を守っていきたい。	玄関施錠はなく、利用者が落ち着かない時はさりげなく傍らに居るようにしています。スピーチロックは、会議の中で時間をかけ学び合っています。つい発してしまう「ちょっと待ってね」の言葉にも「すみません、ありがとう」が添えられるようになったことは、ここ一年の大きな成長です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事が虐待になるのかホーム会議や申し送り等で話し合い職員一同が意識を持って関わられるようにケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の個々の状況を把握し必要な方には制度の説明をさせていただき相談にのっている。現在活用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る場合は、契約の時間や契約書の内容理解、取り交わしがスムーズにできるよう十分説明を行っている。(必要であれば先に渡して目を通して頂いている。)不安や疑問点については、聞きやすいよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、今の所意見や要望はない。ご家族の訪問は比較的多く、訪問時や電話で何でも言っていただける関係ができています。	少ない家族でも週に1度の面会があり、孫や親戚も訪れています。リレーションを心がけたことで、家族のロコミで待機者に繋がり、信頼をつくることの大切さを実感しています。『ありがとう新聞』は毎月利用者本人が色づけしたものが家族に届けられ、小さな関わりにも配慮しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の申し送り、業務の中でコミュニケーションを取りあい意見などを言いやすい・聞きやすい環境ができています。	考えるケアを推奨するなか、職員の意欲と発言力が高まっています。疑問点はみんなで解決していく姿勢をもち、介護技術の学習を会議時間を利用して行い、報連相も徹底させています。また時間前には居間で待ちわびる人もるほど人気の高い体操は職員考案のものです。	今後は個人面談を行っていく予定とのことです。実現を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を聞き入れ働きやすい体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議のなかで様々な病気やケアの事例、その他の資料に基づき勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流の時間や機会がとれない。今後、研修等に参加し同業者との情報交換などを通じ相互の訪問など活動を進めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者に対して、本人の要望や意向を傾聴し関わりを多く持つようしている。今までの自宅での生活習慣等全職員で共有し安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な話し合いの場を設けている。家族の要望、思い等を確認しながら今後のサービスを導入していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め必要であれば他のサービスを含めた支援計画をたてている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできる事を確認し、一緒に作ったり手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の精神的安定を考え面会に来ていただけるよう家族にお願いし、行事等の時にはお誘いし一緒に楽しんで頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人、知人が面会に来て下さったり、手紙を出したり友人から頂いたりできています。今後も関係が途切れないよう支援していきたい。	家族と外で過ごし食事を摂って戻る利用者も多く、親戚づきあいを続けている人もいます。好きな花の水やりを日課とし、新聞を取りに行くことが役割の人、毎日読書をする人、宗教を続けている人、駐車場の掃除を担当している人もいます。年賀状や手紙の支援もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	連絡ノートを活用し、統一したケアが行えるようになっている。入居者同士の関係等を把握し、より良い関係が築けるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居あるいは退去後も電話等により連絡・相談を受けるとともに必要に応じた対応をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にホーム会議を開催し職員全員でその時々本人の思いの把握に努めている。また、家族や本人とのコミュニケーションの機会を持ち職員全員で本人の「思い」を共有するよう心掛けている。日々の変化にも気をつけている。	要望を明瞭に伝えることができる人もいて、独自シートで集積しています。言葉にできない人には、職員が投げかけを試みて、反応をもって推し量るようにしています。不穏は本人の感情の発信と捉え、受けとめています。一対一になる夜間にはたくさんの言葉の表出がある人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで(家)の生活環境がなるべく持続できるよう心掛け本人や家族への確認をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の変化に気を配り、バイタルチェックをして身体状況を確認している。心配事があれば定期往診時主治医に確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を定期的に伺い、毎月のカンファレンスにおいて様々な意見交換し今後の方針を共有して。また、計画作成担当者はモニタリングを行い、カンファレンスや担当者会議等での意見をもとに介護計画を作成している。	担当制を敷き毎月ユニットでカンファレンスを行い、プランは計画作成担当者が作成したうえでケアマネージャーがチェックしています。「話好きなので会話をもっとほしい」「自分から話しかける人ではないので職員から声をかけてほしい」との家族要望もあり、プランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや連絡ノートで個人個人の把握に努め、職員全員での情報の共有につとめている。気になることがあればさらに特記事項として注意喚起している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り地域での行事に参加し、個々のニーズに答えるよう外部との交流に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々と交流活動を行なっている。(近くの公園の草取りやゴミ等をスタッフや皆様に協力して片付けを行う。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で対応してくれる協力医療機関を利用している。本人や家族の意向により他のかかりつけ医を利用している方もいる。家族が受診対応しその結果を家族と職員で共有している。	かかりつけ医を継続している人は2名で、受診は家族にお願いしています。月2回往診があり、急変時にも駆けつけてくれる在宅専門医のため安心が大きく、ほとんどが協力医に変更しています。まず、週に一度訪問看護が来所し細かい観察と指示で早めの対応ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気配りし医療や看護に関する事は細かく報告している。看護師や主治医の指示を仰ぎ支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と常に情報を交換しどのような状況かを把握し本人にとってどうしたら良いか関係機関全体で考え方向性等の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、契約時は対応できるケアについて説明をしている。看取りの方向であればその状態に近づいた時、説明・同意のうえ家族・医療・ホームが一体となり対応を行っている。	本年は1件の看取りがありました。誠意をもってエンゼルケアまで実践する先輩の姿に、若い職員から「私も一緒にみます」との声も飛び出しています。また「生前そのままのいい顔に整えてもらえた」と家族から感謝も届き、心強い協力医に支えられた事業所の意欲は高まっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを事務所に掲示してある。ホーム会議でスタッフ全員、様々な感染症や病気、その他について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム会議で勉強をし年2回防災訓練を行っている。防災委員4名を決め搬送方法や消火器を使った訓練等、近くの運動場を借りて入居者と最適な方法で訓練している。	地域の防災訓練に参加し、また運営推進会議においても発災後について情報交換ができており、災害対策において先んじています。備蓄は一週間分を見据え準備を始めました。さらに地域連携に向け、「避難所としての利用など事業所として協力できる」ことも発信しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し言葉使いやその方の言動に、その時の状況を考えて対応するよう心掛けている。	入職時には尊厳、マナーの研修を行っています。接遇は繰り返しの意識づけが必要と考え、標準化に向け本人だけでなく職員全員に伝えており、行動変容がみられています。また疑似家族として毎日生活を共にすると馴れ合いになりがちな点を特に留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の要望に添うように着替え等の準備も一緒に行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や本人の気分にあわせ日程の調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方の介助は声掛けを大切にして支援させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の準備を出来る方には一緒に行っている。必要に応じて食べ易い大きさに切っている。	管理栄養士による年間の献立表をベースとして、ユニットごとアレンジを加えながら調理しています。魚の形がわかると食が進まない利用者には、すり身にして提供する工夫もみられます。野菜は近隣業者から配達され、週に1~2回利用者とおやつレクで楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事量、水分量などをチェックし記入している。水分が必要な方には、なるべく飲んでいただくよう声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ声掛けし、必要があれば準備したり介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が自立し紙パンツやオムツは使用していない。歩行時のふらつきや体調不良時には声掛けし必要であれば介助を行っている。一時的にパットを使用する場合もある。常時紙パンツの使用が必要な方は、随時声掛けしトイレでの排泄を促している。	布パンツへの移行を目指しており、排泄チェック表でパターンをつかんで誘導しています。重度になっても日中はトイレでとし、自立を意識したケアが実践されています。夜間は原則安眠確保ですが、眠りが浅く尿意が頻回な場合は眠剤に頼らず本人の感覚を優先した支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄管理している。便秘対策として繊維の多い食事や水分、牛乳など提供し自然排泄ができるよう支援しているが、薬の服用が必要の方も多くDrの指示に従っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるが、入浴表をつくり全員が同じように入浴できるよう配慮している。入浴時間帯はある程度限られているが個々の希望に考慮して対応している。	毎日湯を準備して週2~3日の入浴としていますが、希望があれば応じています。重度化が進み、職員二人介助が必要な人が半数以上となっています。敏感肌の人もいるため浴剤は使っていませんが、柚子湯や菖蒲湯が好評です。同性介助の希望にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて室温を調節している。照明や就寝希望時間等、本人の状態・希望に合わせて安眠できるよう支援している。また、本人の意思決定を尊重している。(寝る時間も本人が決める)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬専用ボックスに入れ、服薬管理している。服薬の際は本人が飲み終わるまで確認し、服薬後もチェックを行っている。薬情書で個々の服薬を理解し状態によってはDrに相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たみ、ぬり絵、歌、オセロ等個別対応している。時には入居者全員で体操したり、一緒に楽しめるようなレクリエーションの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候で近くの公園へ散歩に出たり、ホームの回りを一周している。月1回の行事でも外出(ドライブ)を取り入れている。	天気の良い日には外気浴や散歩への希望も多いため積極的に外出しています。月に一度はドライブで駿府公園、護国神社と市内を巡り気分転換を図っています。法人では福祉車両を備えての後方支援もあることから、今後は「利用者の意向に沿った外出計画を」と考えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりして、必要時に本人に渡すこともある。ほとんどがホームにて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちを尊重し、希望があれば家族に電話したり友人・家族に手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日係を決めて、掃除、消毒の実施を行っている。フロア、居室内の温度調整やカーテンの開閉等気を配っている。季節の花を活けて季節感のある居住空間の工夫をしている。	階段には運動会や敬老会の行事写真が、また壁にはちぎり絵が拡がり、筆書きの絵手紙は居室入口に誇らしげに飾られています。レクリエーションでは明るい声が響き、利用者の朗らかな表情に日頃の行事や作品づくりの確かな歩みが覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で、ソファに座って話をしたり、テーブル席で話をしたりテレビを見たり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたものなどを中心に馴染みの物を利用している。居室の掃除はスタッフが中心となって行うが、本人の気持ちを大切にし整理しきれない所もある。その人らしい生活を支援している。	家族や愛犬の写真を置き、また年賀状を何度も読み返す人もいて、個々の時間が大切にされていることが見てとれます。その人にとっての心地よさが何であるかを大事にしており、鏡台でスキンケアと身なりを整えてから朝食に臨む人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレまで行くのになるべく障害を作らない様にしている。手すりも設置している。		